



言葉、障がい こえて楽しむ



パラバドミントンのイギリス選手団にインタビューするこども記者

文京総合体育館で11月10日、イギリスのパラバドミントンのジャック・シェパード選手、クリステン・クームス選手、マティーン・ルーク選手、そして、ダニエル・ベゼル選手取材しました。初めてバドミントンをやった時、とても楽しかったから、選手になろうと思ったそうで

力強いショット

す。またバドミントンは、みんなが楽しんで良いと言っていました。
実際に選手と打つと、やはり、力強いと思いました。私は学校で昨年バドミントンをラブでした。本当の選手とバドミントンができて、とてもうれしかったです。
(小5/小貴美佳)

パラバドミントンイギリス代表選手に取材

世界1〜6位とプレー

毎日練習している、イギリス人のパラバドミントン選手

なるそうです。

4人にインタビューしました。朝9時。もう練習が始まっています。火、木曜日はジムでトレーニング。それ以外の平日はコートでラケットをふります。月1回程度は栄養や心の支えなどのセッションをおこないます。これでパラノスのとれたトレーニングに

2012年のロンドン大会でパラリンピックが注目され、関心が深まっているそうです。そんな世界ランキングが1〜6位の選手とバドミントンをしました。変な方向に飛んだ球もすべてうけとめ、こちらに返してくれたり、やさしく遠くへ飛ばすコツを教えてくださいました。サーブの時は一緒にやってくれました。パラスポーツは言葉と障がいをこえて楽しめます。

(小6/久保壮太郎)

パラバドミントン



選手の障がいの程度により、車いす2、立位4の6クラスに分類される。ルールは基本的には通常のバドミントンと変わらないが、車いすと下肢障がい(SL3)のクラスはシングルスのコート半面で戦うなど特有のルールがある。



飛んだ球もすべてうけとめ、こちらに返してくれたり、やさしく遠くへ飛ばすコツを教えてくださいました。サーブの時は一緒にやってくれました。パラスポーツは言葉と障がいをこえて楽しめます。

会場に音楽 理由は?

東京2020パラリンピック競技大会で初めて正式種目になるパラバドミントンのイギリス選手団に取材しました。彼らは月曜日から金曜日までの朝9時から夕方5時まで練習を重ねています。その練習風景を見て、私は音楽がかかっていることに気づきました。普通なら、音楽で集中力が欠けるため、かけないほうがよいはず。なぜ? 気になって質問し、とても驚きました。

理由は三つ①モチベーションを上げる②ガヤガヤになれる③楽しい気分にする、です。②は大会が関係します。会場はたいがいガヤガヤしていてさわがしいです。そこで選手たちは試合をし、自分の実力を全て出し、勝たなくてはなりません。だから音楽をかけるそうです。③はアスリートとしての大変さを軽減させるためです。ほとんど毎日の大変で苦しい練習を乗り切るために、楽しい気分になっているのです。

バドミントンをする選手たちはこやかで、フレンドリーで、私がミスをしてもらいやな顔一つせず、シャトルを拾ってくれました。逆に、私がよいショットをすると、「NICE!」と笑ってくれる。選手たちはつらい練習をしながらも、小さい幸せを見つけて、今の生活を楽しんでいて素晴らしいと思いました。(中1/尾崎由佳)

正式種目を夢見て努力

「パラバドミントン」が初めて正式種目に決まったときの気持ちを、イギリス代表選手に聞きました。とてもうれしかったそうです。背景にはアマチュアスポーツとしてあつかわれ、まわりの関心が少なかった過去がありました。正式種目になり、まわりのサポートも受けやすくなって、やっと自分が一人前の選手になれたと感じたそうです。ほかにも新しく追加されたスポーツは、それぞれの選手が正式種目になるの

を夢みて努力した結果だと感じました。

実際にバドミントンをする、最初は、シャトルをとばすこともできず空ぶりばかりでした。しかし選手に1対1で指導され、終了まぎわには、5回ほどラリーが続くようになりました。とても楽しかったのですが、体験後、ラケットでうち続けていた右手が、急な痛みにおそわれました。この記事を書いている間もいたかったです。こんなハードな練習をまいにち7時間以上も行っている選手は本当にすごいと思いました。(小6/福田心美)